

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	都島区
学 校 名	大阪市立桜宮小学校
学校長名	荒木 豊充

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立桜宮小学校では、第6学年 46名

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語：平均正答率は、大阪市平均より1ポイント、全国平均よりも2.7ポイント下回った。内容別平均正答率は「情報の扱い方に関する事項」では大阪市平均を3.6ポイント、全国平均を1.7ポイント上回り、「書くこと」では大阪市平均を1.1ポイント上回ったものの全国平均は1.4ポイント下回った。その他の内容では、大阪市平均、全国平均ともに下回った。

算数：平均正答率は、大阪市平均より1ポイント、全国平均より2.4ポイント下回った。領域別平均正答率は、「変化と関係」で大阪市平均を1.5ポイント、全国平均を0.5ポイント上回ったが、その他の内容では、大阪市平均、全国平均ともに下回った。

分析から見てきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕国語科を重点教科として学力向上支援チーム事業に取り組んだり、体育科を通して「主体的対話的で深い学び」を研究したりして、授業力の向上に努めてきた。その結果、「情報の扱いに関する事項」では「話すこと聞くこと」や「我が国の言語文化に関する事項」で大阪市平均と全国平均より課題を残す結果となった。特に、複合的な資料から要旨を読み取る問題では、平均正答率が全国平均より21.6ポイント、述語に対応する主語を問う問題では、平均正答率が全国平均より12.3ポイント低く、課題がある。

〔算数〕

円グラフの読み取りなどの基本的な問題では全国平均を7.6ポイント上回ったものの、計算に関して成り立つ性質を活用して計算の仕方を考察する問題では平均正答率で全国を11.4ポイント、折れ線グラフを読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する問題では、平均正答率で全国を14.5ポイント下回り、課題がある。

質問調査より

「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目では、最も肯定的な回答をした児童の割合は全国平均より4.5ポイント高く、肯定的な回答の割合の合計は97.8であり、全国平均より15.8ポイント高い。学力向上チーム支援事業などを通じて授業力の向上に取り組んだり、たてわり班活動を軸にした全校児童が仲良くすごすための取り組みを進めたりした結果と考えられる。「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の項目では、最も肯定的な回答をした児童の割合は全国平均より10.8ポイント高く、肯定的な回答の割合の合計は97.8であり、全国平均より11.5ポイント高い。国語科や体育科をベースとして本校が取り組んできた「主体的対話的で深い学び」の成果が表れた結果と考えられる。

今後の取組(アクションプラン)

国語への対策として、本年度も学力向上チーム支援事業で国語科を主として授業力向上に取り組んでいる。学校外で行われる各種研修会にも積極的に参加し、楽しく力がつく国語科の指導法について研究してきた。上記の分析から、本校児童の課題である「我が国の言語文化に関する事項」「複合的な資料から要旨を読み取る力」の育成に努めていく。

算数科への対策として、本年度は算数科の専科授業を取り入れている。個に応じた指導を充実させ、グラフの読み取りや計算力といった基礎学力の向上とともに、主体的対話的で深い学びを充実させ、自分の言葉で算数的思考を説明する力をつけていく。